

かふんひさんすう
ヒノキ花粉飛散数を利用した
果樹カメムシ類のカキ果実の被害予測

果樹試験場 かき・もも研究所

研究のねらい

チャバネアオカメムシなど果樹カメムシ類はスギ・ヒノキ球果で増殖することから、球果着生量の豊凶がカメムシ類による被害に大きく影響する（図1）。しかし、球果量の正確な計測が困難なことから、代用としてヒノキ花粉飛散数を用いて防除開始時期を予測する。

研究の成果

1. ヒノキ球果が果樹カメムシ類の餌として利用できる期間は、カメムシの越冬成虫数と当年の球果量の相対的な関係によって決まり、カメムシは摂食により球果が餌として不適になるとヒノキを離脱して果樹園に飛来する。前年の球果量（花粉飛散数）に比例してカメムシが増殖するので、「カメムシの越冬成虫数と球果量の相対的な関係」は、花粉飛散数比（当年/前年）で表される。
2. ヒノキの花粉飛散数比が低いほど、カキ（富有）の被害増加時期（被害果率が7.5%を越える時期）が早り、花粉飛散数比から被害増加時期を予測できる（図2）。
3. したがって、①花粉飛散数比から予想される被害増加時期を目安にカキ園内を見回り、カメムシの成虫や被害を認めたら、防除を開始する。②その後、3週間間隔で薬剤防除を行う。

成果の活用面・留意点

1. 花粉飛散数は県下5か所の病院（日本赤十字社和歌山医療センターなど）で測定され、ホームページで公開されている。

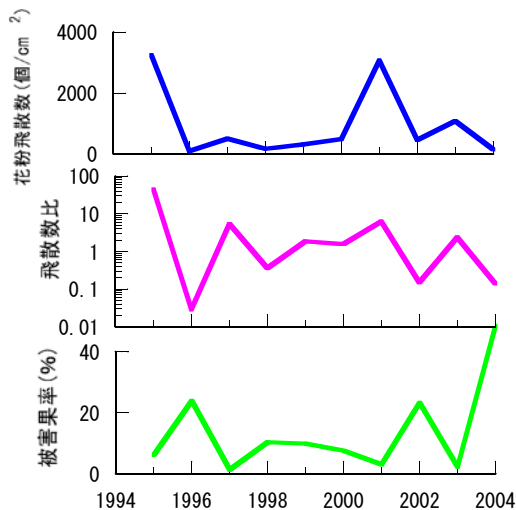


図1 ヒノキの花粉飛散数と飛散数比（当年/前年）、カキの果実被害（富有、10月）の年次変動

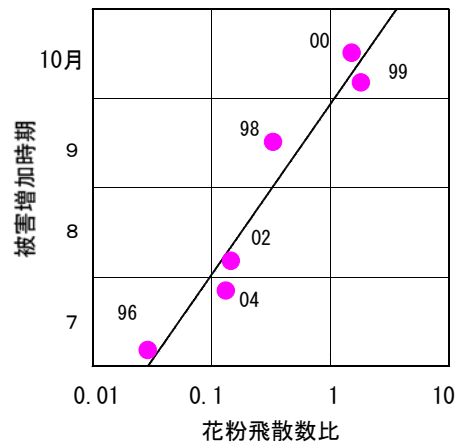


図2 ヒノキの花粉飛散数比（当年/前年）とカキ（富有）の果実被害との関係。数字は年次を示す。被害増加時期は被害が7.5%に達した時期を示す。

（問い合わせ先：0736-73-2274）